

寺族会報

第39号

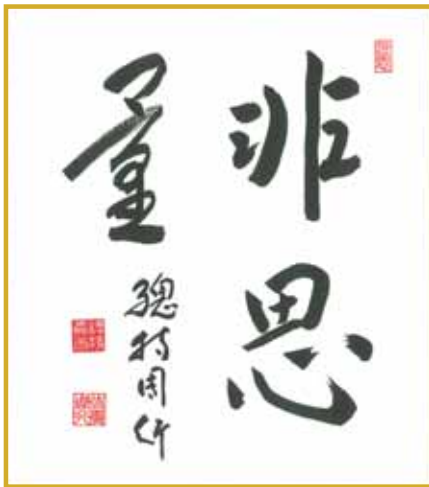
発行 令和6年12月

発行者 曹洞宗宮城県宗務所寺族会

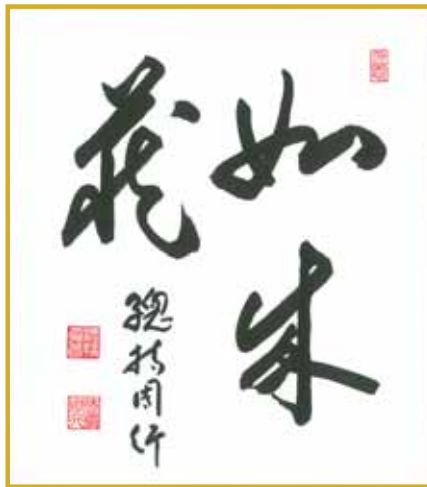
仙台市泉区市名坂字檜町169-4

曹洞宗宮城県宗務所内

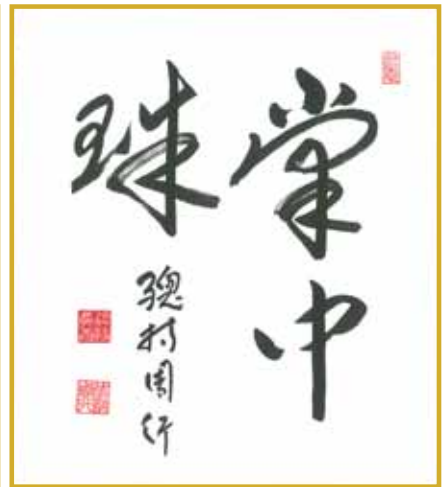
電話 022-218-3801



非思量



如来蔵



掌中珠



大本山總持寺 太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌
宮城県宗務所寺族会 40周年 参拝記念

ふり返ればお陰さま

曹洞宗宮城県宗務所寺族会

会長 須 田 祐 子



總持寺祖院、多くのご寺院様の復興を心より念じるものでございます。

寒空に山茶花咲く季節となりました。県内ご寺族様におかれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より宗務所寺族会にご理解とご協力賜りまして心より感謝申し上げます。

さて令和六年元旦の能登半島地震で被災された方々に心よりのお見舞とご冥福をお祈り申し上げます。そしてまた九月の能登半島豪雨で再び被災された方々が一日も早く日常が取り戻せますように……。

宮城県宗務所寺族会におきましても能登半島地震の方には総会までの募金と合わせて義援金をお送りさせていただきました。また第一回学習会での募金は能登半島豪雨の義援金としてお送りさせていただきました。した事をご報告いたします。

昨年五月よりこの任に当たらせていただきふり返ってみますと(一)「寺族会創立四十周年記念事業」(二)「太祖瑩山禅師七〇回大遠忌、大本山總持寺参拝」(三)「東北管区寺族研修(秋田県)」と三つの大きな事業、行事がございました。

(一)の寺族会創立四十周年記

念式典に於きまして念願でございました歴史代會長様方に表彰状を贈呈できました事はこの上ない喜びでございます。

また記念講演では「六華亭遊花師匠」の落語で心温まる一時を過ごし、明日への活力をいただきました。総会では大変難しい案件であった会費改定につきまして皆様方に賛成の決議をして頂きまして心より感謝と御礼を申し上げます。

(二)は六月二〇日、二十一日と大本山總持寺参拝を致しました。その折に所長老師の特別のお取りはからいによりまして、石附周行紫雲臺猥下に拝謁を賜り、お言葉も頂戴し参加者一同感激してまいりました。猥下は寺族会では初めてだという事でお喜びになられたとの事でございます。

(三)は九月三日、四日と東北管区寺族研修に宮城県から宗務所から三名、寺族二十三名の参加で研鑽を積んでまいりました。

このように今期は行事が多く、どれ一つとして皆様のご協力が無ければ成就いたしませんでした。

「ふり返ればお陰さま」の言葉通り、県内ご寺族様方のお陰であると。そしてまた陰になり日向になり強いお力添えを賜りました所長老師始め宗務所職員の皆様のお蔭であること心より感謝申し上げます。第でございます。

五〇年に一度の「大遠忌」に巡り合わせて頂いたお陰で、より深く瑩山禅師さまを追慕し教えを頂いた一年でございました。

「和合和睦の思いを生ずべし」心に刻みたいと思います。結びに「共に学び。支え合い。笑顔あふれる寺族会ノ」を目標に任期まで事務局一同力を合わせて努める所存でございますので、これまで同様お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

合掌

ご挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

伊藤 守弘



宮城県宗務所寺族会の皆様

方におかれましては、常々ご理解とご協力をいただいておりますこと、衷心より感謝申し上げます。また、能登半島の地震や豪雨により、犠牲になられた方々、被災した方々にはお悔やみを申し上げ、早期の復旧復興を祈念致します。さて本年寺族会様におかれましては、創立四十周年を迎

えられ、従来の事業に加え記念事業の実施など、多忙を極めた年であったと存じます。特に役員の方々は、月に幾度も集まっては検討を重ねるお姿に、深甚なる敬意を表するものであります。

特に、瑩山禅師様七百回大遠忌法要は、七百年の歴史を越え守り伝えられた厚恩に報いる難値難遇の勝縁でありました。寺族会様でも記念事業として三十数名の会員の方々と共に拝登、大祖堂にて瑩山禅師様のご供養と、石附周行紫雲臺猊下への拝問が実現致しましたことは、無上の慶び

でありました。禅師様も一同での拝問を大変喜ばれ、親しく御挨拶をいただき、記念撮影まで終始笑顔でおられたお姿が大変印象的でありました。今回の大遠忌のテーマの、「相承」は、歴代のお祖師様方のみ教えを、しっかりと受け継ぎ次代へ伝えることでもあります。

昨年の十月、宗務所護持会本山研修が永平寺様にて実施された折、石川県羽咋市の永光寺様にも参拝を致しました。永光寺様は瑩山禅師様ゆかりのお寺であり、現在は石川県宗務所でもあります。

開山堂に当る傳燈院にて、正面中央に天童如浄禅師様、右に永平道元禅師様、左に孤雲懷奘禅師様、右の右に徹通義介禅師様、左の左に瑩山紹

瑾禅師様、其々の御木造と御真牌、両側にはゆかりの祖師様方等が祀られておりました。眼前の「相承」の真実のお姿に、只々肅然と焼香礼拝を重ね、感動で身の震える思いでありました。

お寺の将来をお支えいただく寺族様方の役割は、益々大きくなるものと存じます。瑩山様は「篤信の檀那を得たならば、仏法は断絶しない」また「檀那を敬うことは仏を敬うようにすべきである」と、お示しであります。この事を信じ共に精進して参りたく存じます。

今後共、宮城県宗務所へ尚一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

合掌

令和五年度第二回学習会

令和六年二月十四日
宗務所

第二回学習会に参加して

第九教区 龍洞院寺族 工藤 玲子



私はと言いますと、テレビを見ながらの食事が多く、しっかりと味わうことをしていませんでした。これからは食事ですが、様々なことに感謝の気持ちを忘れないように心掛けていきたいと思っています。

また、講義の中で一月一日に起きた能登半島地震でボランティアとして活動されている、坂野

文俊老師のお話をお聞きしました。

ご住職様は東日本大震災で甚大な被害にあわれました。境内には瓦礫などが押し寄せ、かたづけすることは容易なことではありませんでしたが、ボランティアの方々のご支援もあり、数年後にはお寺を復興することができた



700回大遠忌をお迎えして
深めてみましょう
～瑩山禅師さま～

講師 巨理郡山元町徳本寺
早坂文明師

令和六年二月十四日、第二回学習会が開催され講師に早坂文明老師をお迎えし、「七百回大遠忌をお迎えして 深めてみましょう」瑩山禅師さま」というご講義を頂きました。

瑩山禅師様のお母様や修行中のお話、總持寺祖院を復興なされた経緯など詳しくお話して頂きました。中でも心に残りましたお言葉が「喫茶喫飯」です。これはお茶を飲んでいる時にはお茶を、食事をしている時には食事に集中し、しっかりと味わう事で生産者や調理された方への感謝の気持ちを忘れないようにする事だそうです。

そうです。この時のご経験から、被災地に赴きボランティアとして活動されているというお話でした。

同じ様に行動することは中々難しい事ではありますが、私自身が出来た事で、お檀家様や地域の方々に寄り添っていただける寺でありたいと思いました。

合掌

宮城県宗務所寺族会総会

並びに 寺族宗務所集会・研修会

令和六年五月十四日

— 錦ヶ丘アーリー迎賓館 —

総会に参加して

第二十教区 実相寺寺族 菅 原 優 子



令和六年度寺族会総会が五月十四日、錦ヶ丘アーリー迎賓館にて開催されました。午前の研修では寺族会創立四十周年記念公演をしていただいた六華亭遊花師匠の東北弁落語に何度も笑ってしまい、県総会二度目の出席で少し緊張していたのがリラック出来たように思います。昼食時には同教区の先輩寺族様から他教区の寺族様を紹介していただき、知り合いも少なく右も左も分からない私でもお陰様で楽しい時間を過ごす事が出来ました。



議長 東禅寺 三宅 靖子 様

でも大切なのだ教えられた気がします。まさに曹洞宗の教え「相承」だと感じました。

合掌

午後からは総会・四十周年記念式典・寺族会会費改定と盛り沢山な内容で打ち合わせや準備さらに会費改定の事前協議や通達等、事務局の方々には普段の総会より行う事が多く大変だったのではと思います。感謝申し上げます。

を頂戴する機会に恵まれました。御住職様を影から支える大切さ、寺族会では先頭に立って物事を進め皆をまとめる大変さなど経験に裏打ちされた言葉には重みがあり、そのように歩まれてきたのだなと思うと尊敬の念が湧きました。

寺族会費改定をせざるを得ない程、寺族が年々減少している現状ではありますが諸先輩方が継いで繋いできた寺族会、少しでも関わりを持つ事がこの先の寺族会にとって、また自らにとっても大切なのだ教えられた気がします。

— 義援金の報告 —

総会、学習会においてご協力いただいた義援金は、

一九六、一三〇円でした。

・ 總持寺 — 能登地震支援金

・ 日赤令和六年能登半島 — 義援金

・ 日赤令和六年九月 — 義援金

に寄付させていただきました。ありがとうございます。



歴代会長表彰を受けて

先代の会長様方、

これで、良いでしょう

十四代会長 第九教区 圓通院寺族 花 釜 祥 子



寺族会設立四十周年、おめでとございます。歴代の寺族会長に携わりました私達を、総会にお招き頂き誠に有難うございます。皆様にお会いできた事だけでも胸がいっぱいですのに、親切なおもてなしを受け感動致しました。曹洞宗宮城県寺族会として昭和五十八年八月に設立総会を開き、当時、宗務所は新寺小路妙心院様境内にあり、大変お世話になったと聞いております。寺族会が設立された時に、常研鑽をつむ場でありたいという願いで発足しました。本会の

目的の為、研修会も多く開催され、宗務所長様、教化主事様、人権主事様、宗務所の皆様方のご指導を仰ぎ、仏教概論、寺族必携を紐解いて頂き、基本的な知識を伝授、仏教とは、お釈迦様について、また、本堂にある仏具の名前、住職様の法衣、持ち物等覚えるのに苦労致しました。寺族会総会、集会、研修会は、各年ごとに泊りで行なわれ楽しく親睦させて頂きました。東北管区寺族会研修会も当番制で行なわれ、内容は盛りだくさん。皆様に会え大きなパワーを感じます。

会は生きている、息をしている。と、私はその様に思います。ピフミッド型？ヘビ型？丸い山型？どうでしょう？私達寺族皆で育てているので

曹洞宗宮城県宗務所寺族会歴代会長

	氏 名	寺 院 名
初代会長	葦 名 濱 子	館 山 寺
第2代会長	木 村 登美子	瑞 川 寺
第3代会長	横 山 みゑ子	繁 昌 院
第4代会長	目 黒 あ い	裁 松 院
第5代会長	中 村 尉 子	瑞 雲 寺
第6代会長	吉 岡 律 子	東 光 寺
第7代会長	富 盛 愛 子	大 雄 寺
第8代会長	菅 原 美保子	洞 川 院
第9代会長	北 村 かほる	法 山 寺
第10代会長	西 山 弘 子	大 満 寺
第11代会長	木 村 静 江	富 光 寺
第12代会長	奥 野 弘	広 瀨 寺
第13代会長	葦 名 深 雪	妙 心 院
第14代会長	花 釜 祥 子	圓 通 院
第15代会長	清 野 千代子	龍 澤 寺
第16代会長	神 作 喜代乃	清 涼 寺
第17代会長	中 村 晶 子	瑞 雲 寺
第18代会長	北 村 郁 子	法 山 寺
第19代会長	我 妻 有	江 巖 寺
第20代会長	岸 恵代子	三 古 寺
第21代会長	須 田 祐 子	興 福 寺

す。時には水も飲みたいし、休憩もしたいでしょう。でもそれも受け入れて、長く長く育ってほしいです。右に行ったり、左に行ったりするでしょうが、最後は根の張った一本の大きな木の様な寺族会になることを望んでいます。

合掌



13代会長 葦名深雪様



寺族表彰を受けて

第十一教区 澗洞院寺族 二階堂 千代子



この度、永年寺族表彰を頂戴し厚く御礼申し上げます。顧みますと當山は諸事情にて、現住職で息子が平成元年中学卒業後、修行安居することとなり、不安の中、送り見守ることしか出来ませんでした。それを機に前住職である義姉に就き平成四年に寺族安名を授け今日まで二十三年の月日が経ちました。その当時は、居住がお寺から離れておりましたので、右



満照寺 畑 山 登美子 様



も左も分からず何か行事がある時に呼び出されてという生活でした。

息子が帰山してからは、檀務をしながらお檀家さん方とご縁を結び、地域・社会に貢献している姿に安堵しておりましたところ、宮城県北部連続地震・東日本大震災共に大きな被害を被り、復旧復興を願い見守るばかりでした。何をしたら良いのかと考えている時、寺族会・婦人会等お誘い頂き多くの寺族様方と出会

い、研修会や学習会、団参等で学ぶことも多く、お茶を飲みながらお話をしている時も楽しくて安らぎの場でもありました。たくさんのお出合いとご縁・支えていただいた皆様方に心から感謝申し上げます。今後とも驕ることなく、気持ち一心して、これからも大事

に大切に宗門・當山の護持に勤め伝えていきますよう精進して参ります。
宗門の更なる発展・寺族会皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。
この度は誠に有難うございました。

合掌

令和六年度

曹洞宗宮城県宗務所寺族表彰者名簿

☆昭和二十四年一月一日～昭和二十四年十二月三十一日生まれの寺族
☆右記以前生まれの未表彰寺族 (敬称略)

教区	寺 院 名	氏 名
1	福聚院	伊達れつ子
1	昌林寺	松山茂子
2	光壽院	阿部文子
7	龍泉院	佐藤三智子
11	耕徳寺	長谷川和子
11	澗洞院	二階堂千代子
12	満照寺	畑山登美子
17	観昌寺	門脇由紀子
17	普門寺	高橋恵美子
18	泉昌寺	亀井美穂子
18	安養寺	小野アツ子
21	正法寺	大窪秀子

(曹洞宗宮城県宗務所褒賞規程第一条第二項該当者)

寺族会創立四十周年

記念講演について

第十四教区 安永寺寺族 清野 由美子



「笑ってなまってるコミュニケーション」と題して、岩手県遠野市出身東北弁落語の六華亭遊花師匠をお迎えして行われました。

東北なまりの遊花師匠、夫婦の笑いとお所の井戸端会議やおばあちゃん達のおじやつこ飲みの事、又「むかしむ



かしあるところに」で始まる桃太郎の話などを盛り込んでの落語は会場内が笑いへと誘われ、とても和やかに楽しませて頂きました。

ここ数年間は、コロナのまん延、自然災害、悲しい事件、世界では戦争が起きていたり、と暗いニュースが飛び交い不安な時代であります。日常生



活においても、何かに追われているような慌ただしさの中で私は声を出して笑っているだろうか？とかえりみる機会となりました。様々な事が私の心や身体に大きくのしかかり、バランスを失って知らず知らずのうちに笑顔や心の柔らかさ、温かさをなくしているような気がします。

遊花師匠の落語を聴いて笑いというものは本当に心を軽やかにしてくれるもの、そしてストレスも緩和してくれると感じました。

「笑う門には福来る」笑いのある所には人が集まると言いますが、声を出して笑うと

いう事、常日頃から口角を上げて幸せへの元を増やしていこうと思えました。

又、今お寺を取り巻く状況が大変になってきています。学び、実践し、笑顔あふれる寺族をモットーに歩んで参りたいと思います。たくさんの方の元気を頂きありがとうございます。

これからも東北に寄り添い東北なまりで素朴で暖かい落語を届けてほしいと思います。

合掌



寺族物故者供養

笑顔で寺を

支えた義母

第十二教区

長谷寺寺族

鈴木 智美



令和五年十一月二十六日、義母は静かに旅立ちました。享年八十九歳でした。静かに、という言葉は義母の人柄を表すにも適した表現のような気がします。しかし、その静かな佇まいの中に強さを持っているような人でした。寺のことやお檀家さんのことはよく教えてくれましたが、自身のことを多くは話しませんでした。義理の姉や住職に聞くと苦勞の多い人生だったようです。多くを語らないその姿勢が義母の強さだったのかも

れません。東堂は現役の頃教員をしていたため、寺のことを一手に引き受けていた義母の働きぶりは、お檀家さんからも聞こえてくる話です。テレビとも話をするような饒舌な東堂と比べると、口数は多い方ではありませんでしたが、お檀家さんと接するときの穏やかでにこやかな笑顔は、嫁の私からみてもとてもチャームングでした。義母が亡くなつてまもなく八ヶ月、電話対応や遠方のお檀家さんが訪ねてきたときなど「お母さんだったら、もっと上手に対応していただろうな」などいつまでも越えられない義母の背中を思いながら反省の日々です。



早くに病で倒れ、晩年は旅行など好きなことをさせてあげられなかったことが心残りではあります。孫の成長を何より喜んでいた義母だったので、きつと今も微笑みながら、たまには心配しながら見守ってくれていると思います。どうか、義母が心安らかに笑っていてくれますように。合掌

謹んで御冥福をお祈り申し上げます

令和五年四月一日〜令和六年三月三十一日御逝去

(敬称略)



教区	寺院名	氏名	死亡年月日
18	金剛寺	小野 みのる	令和五年五月二十六日
9	眞源寺	城山 篠子	令和五年六月二十二日
7	珠光寺	関 時子	令和五年八月八日
12	延命寺	齋藤 厚子	令和五年十月十四日
11	広淵寺	奥野 弘	令和五年十月三十一日
7	昌源寺	高橋 律子	令和五年十一月二十四日
12	長谷寺	鈴木 さつ子	令和五年十二月二十六日
9	雲正寺	藤元 ヨシミ	令和五年十二月二十三日
16	興福寺	須田 敬子	令和六年一月一日
4	法圓寺	寺川 幸子	令和六年一月十日
17	吉祥寺	菅原 みち子	令和六年一月十一日
10	皎善寺	日野 菊枝	令和六年二月二日
2	栽松院	目黒 あい	令和六年二月二十七日

当該者寺院からのお申し出により、掲載されていない物故者の方もいらっしゃる場合があります

寺族会創立四十周年記念本山研修旅行 大本山總持寺太祖瑩山禪師七〇〇回大遠忌

令和六年六月二十一日～二十二日
大本山總持寺

寺族会創立四十周年記念

本山研修旅行 一日目

第十教区 西林寺寺族 佐藤 松江



六月二十一日九時、新緑の仙台をバスは寺族三十五名を乗せ出発致しました。車中で

は事務局の皆様の進行により、自己紹介やビンゴゲーム大会等和やかな雰囲気にも包まれました。那須のお菓子の城で昼食を取り、その際くじ引きの席決めでしたので、今までお話しする機会が無かった方々と地域の事など会話が弾み、あっという間の昼食会でした。その後バスは順調に四時間程で宿泊先の横浜のホテルニューグランドに到着しました。このクラシックホテルは本館の大階段など随所の造り



が庄巻で、歴史と文化の魅力に浸りました。部屋で一休みし、向かった赤レンガ倉庫は横浜の発信拠点に相応しいショップが集合されておりお洒落な空間でした。散策後はサザンの曲「ラブ・アフエア秘密のデート」でお馴染みの「マリルージュ」でのディナークルーズです。伊藤守弘宗務所長老師より祝辞と乾杯のご発声を頂戴し二時間のディナークルーズが始まりました。輝く宝石の様な夜景に魅了され、上質なディナーを堪能、途中スカイデッキへと案内され、心地よい潮風に吹かれながら見上げたベイブリッジは夢世界でした。席に戻るとメインディッシュが用意され、楽しい会話と共に素晴らしい時間を過ごしました。一日を通して寺族間の交流が大きな輪と

なり大変有意義なものとなりました。ひとえに事務局の皆様方のご尽力によるものと、心より感謝申し上げます。

合掌



寺族会創設四十周年記念

本山研修旅行 二日目

第五教区 名川寺寺族 菅 野 喜和子



太祖瑩山禅師七百回大遠忌にあたる今年、初めて本山研修に参加させていただきました。旅行の二日目は本山参拝です。生憎の雨に少し残念な気持ちで本山に向かうと、境

内の紫陽花が色鮮やかに出迎えてくれました。大きなしゃもじとすりこぎがある玄関を入り、待鳳館の一室に案内されました。この建物は徳川家の屋敷を移築したもので、かつて天璋院篤姫が晩年を過ごしていたそうです。ふすまや欄干に歴史の重みを感じ、当時の様子を想像しつつ拝観の時間を待ちました。



百間廊下、向唐門、衆寮など境内を案内していただいた後、紫雲臺にて禅師様との相見となりました。緊張して待っていると、穏やかなお顔で禅師様がお見え

になり、東日本大震災の折に気仙沼を訪れた思い出など、親しくお話をさせていただきました。最後は、太祖瑩山禅師七百回大遠忌法要への参列です。広い太極堂に読経の音が響く荘厳な雰囲気。道元禅師様、瑩山禅師様をはじめ、お祖師様方が長い年月をかけて相承してきたお釈迦様の教えのバトンが、今まさに私たちの手に渡されようとしているのだと改めて感じました。お



昼には心づくしの精進料理をいただき、身も心も満たされて本山参拝を終えました。

この二日間は、私にとって本当に得難い経験となりました。研修旅行を企画・準備いただきました県寺族会役員の皆様、宗務所の皆様に心より感謝申し上げます。また、研修に快く送り出してくれた家族にも感謝しています。ありがとうございました。

合掌



第五回曹洞宗東北管区寺族会研修会

東北管区初参加

第十一教区 寿昌院寺族 山 田 明日香



九月三日から四日、二年に一度の東北管区研修会が、今年度は秋田県で開催されました。ご来賓の方々を含めると、三百人を超える大規模な研修会でした。

会場入口では、なまはげの盛大なお出迎えがあり、歓迎セレモニーでは七百年の歴史をもつ、西馬音内盆踊り「北の盆」を興



味深く観させていただきました。

記念講演は、北秋田市龍泉寺御住職、佐藤俊晃老師による

「禅僧の母、禅僧の妻」を拝聴し、寺族の働きの深さを理解し、励ます内容に感銘を受けました。

講座では、広島県普門寺御住職、吉村昇洋老師による「禅の精進料理」をご教授いただき、



見識が広げられ深める事ができました。

寺族フォーラムや夜の宴会もとても盛り上がり、他教区他県の寺族様との交流も広がり懇親が深められました。

宴会料理の「きりたんぼ鍋」も美味しかったです。朝食バイキングにあった「しよつる焼きそば」が味わい深く美味しかったです。

帰り際、かの有名な千秋公園入口の壮大な蓮池の側を通ることができました。見頃の蓮が美しく咲き誇っていました。



令和六年九月三日～四日
秋田キャッスルホテル



私は東北管区は初めての参加でしたが、研修内容も良く、何より、会長様始め事務局の方々に良くしていただき、とても居心地の良い二日間を過ごしました。

再来年は福島県での開催とお話がありました。また参加できたらいいなと思っております。

合掌

令和六年度第一回学習会

「太祖瑩山紹瑾禅師の御生涯」

令和六年十月二十二日
宗務所

「太祖瑩山紹瑾禅師の御生涯」

本庁派遣講師
気仙沼市満福寺副住職
菊地志門 師

「学び続けることの大切さ」

第二教区 妙心院寺族 葦名道子



の良い会でした。

初めに「瑩山禅師が大切にされた三つのこと」が今回の講義で学ぶべき目標として掲げられました。

一つ目に瑩山禅師の御生涯で、観音信仰のあった母から影響を受けた「菩提心を忘れない」といつまでも菩薩であり続けるという

爽やかな秋晴れの十月二十二日、「太祖瑩山紹瑾禅師の御生涯」をテーマに、本庁派遣講師、気仙沼市満福寺副住職菊地志門師をお迎えし、第一回学習会が開催されました。

スライドを見ながら丁寧な説明に耳を傾け、クイズ形式の問題に手を挙げたり、お子さんとのエピソードを交えた例え話に、参加した寺族五十名の笑い声に包まれ和やかな雰囲気



う一貫した姿勢を持つこと。
二つ目は「檀信徒の支えと信仰があつてこそその仏道修業」寺院・檀信徒・地域の人と仲の良い関係を築くこと。

三つ目は「次世代にバトンを繋ぐ」弟子・後進を育てること。これら三つのことは、お寺を護持していく役割のある寺族にとっても、大切なことであると感じました。

結びに、さらに学び続け理解を深めることで、檀信徒にとって柔軟な対応ができるお寺になってほしいとのこと言葉をいただきました。

今回の学習会をきっかけに、ご紹介いただいた恩師東隆眞先生ご執筆の「洞谷記」を読み、瑩山禅師とゆかりの深いお寺を巡ってみようと思います。

このような、学び続けることの大切さと楽しさを再認識する機会を設けていただき、心より感謝申し上げます。

合掌

曹洞宗宗務庁主催 令和6年度 曹洞宗寺族中央集会



期 日 令和6年10月15日～16日
会 場 曹洞宗宗務庁
参加者 第21教区 興源寺寺族 佐藤秀子



十月十五・十六日、宗務庁に於いて全国から六十五名が参加し寺族中央集会が開催されました。

初めて同う宗務庁、そして全国の寺族様方との中央集会に不安と緊張の参加となりました。受付を済ませ午後一時よりの基調講演は、「防災減災における寺院の役割」と題して、大阪大学大学院教授 稲場圭信先生のお話でした。

今年一月の能登半島地震における支援活動については実際に経験した東日本大震災に重なる思いでした。特に「普段から思いやりを説く寺、災害時にその寺院が苦難にある人を前に門戸を閉ざす選択肢は無い」と云うお言葉は、当時多くの寺院様が被災された地域住民を受け入れ避難所とされていた事を思い出させるものでした。災害の備えとして日頃から地域住民との協力関係を作り、共助の精神でその中心となる事が寺院には求められていると深く感じました。休憩を挟み人権学習講師はシャ



ンティ国際ボランティア会国内事業課 石塚咲氏による「災害と女性の権利」についての内容でした。

シャンティでは能登半島地震発災後の一月六日から被災地に入り活動されているとの事でした。シャンティ国際ボランティア会の被災地での事業は避難所運営、炊き出し、足湯傾聴活動、入浴、買い

物支援等々多岐にわたり大変なご苦労があると推察されました。なかでも避難所における女性については深く考えさせられました。避難所の運営にあたっては住民組織の長に女性が圧倒的に少なく、それをサポートする公的機関の職員も女性が一人も居ない為、女性ならではの視点が反映されにくいとの事でした。災害が発生した場合、重要な役割を成す避難所の問題は今後早急に改善を要するものと強く思いました。

薬石後の班別会では当日の講習を踏まえ、各班ごと活発に意見交換が行われていました。

翌日はメインテーマ「宗務所管内の寺族の方々が寺族の任務を果たす上でどういった課題に直面しているか」について全体会が行われました。様々な問題の中、寺族が成す



べき事はあまりにも多すぎて一人でこなしていくには限界が感じられる等々、切実な意見も多く見受けられ私自身も深く考えさせられました。

しかし住職を補佐し寺院の運営を円滑に進めていく為には、お檀家様に限らず地域住民の皆様とのコミュニケーションを常日頃から大事にし教区寺族様との交流協力も頂きながら日々研鑽していく事が大切だと思いました。

始めは不安な気持ちで参加した中央集会でしたが、他県の寺族様との交流は大変貴重な体験となり楽しく過ごせた意味のある二日間でした。

最後にお世話頂きました多くの皆様から感謝を申し上げ中央集会の御報告とさせていただきます。

合掌



教 区 だ よ り

〔第7教区・第19教区〕



震災から十三年

第十九教区 鳳仙寺寺族
内山 仁省

第十九教区は、宮城県の最南端の沿岸部に位置しており、巨理郡内十三ヶ寺で活動しています。例年総会、絵本を届ける運動、研修旅行、忘年会や新年会などの行事を行ってきました。ここ数年コロナ禍においては、行事の縮小や各寺院にての活動もありましたが、昨年と今年は研修会を再開することが出来ました。奇しくも昨年は

震災の十三回忌ということもあり郡内の震災遺構（震災遺構中浜小学校）を見学、語り部のお話をじっくり聞くことが出来ました。そして今年は県北志津川震災遺構（南三陸三・一メモリアル）を訪れることが出来、充実した研修となりました。

十九教区は東日本大震災で沿岸部の十ヶ寺に津波による甚大な被害がでた教区です。もちろん地震による被害はもとより、檀家さんが沿岸部の住まいで被災したり、十三ヶ寺すべてに影響がありまして。巨理町では死者行方不明者二

百八十一名、山元町では六百十名（当時河北新報発表）という状況でした。あれから十三年、私達は様々な形で檀家さん方に寄り添ってきましたが、今回あらためて震災遺構を訪れることで多くの学びがありました。ここ数年教区内にも若い寺族さんが増えました。今後は震災物故者への慰霊と、より一層の檀家さんに寄り添う姿勢の大切さを、次の世代へと伝えていかなければという想いを強くした研修会でした。

合掌



出来る事を少しずつ

第七教区 雲泉寺寺族
坪内 幸子

第七教区は宮城県のほぼ中央部に位置しており、富谷市と黒川郡（大和町・大郷町・大衡村）の十五ヶ寺十九名の会員で構成されています。

教区寺族会の役員は輪番制をとっていて、当初は四つのグループに分け二年の任期で回っていました。

しかし、会員数の減少等により数年前から三つのグループとなり、来年度以降は二つのグループに再編し四年任期（但し、グループ内に於いて二年交代も可）としました。

私にとってそんな中での会長兼理事は大きな負担でしたが、今となつては宗務所寺族会の皆様との関わりの中での出会いにより学び等多くの経験や知識を得られた事に感謝しています。

行事の面では四月の総会に始ま

り一泊研修旅行や日帰りの研修会、忘年会や新年会と盛り沢山で、その時々役員さんの腕の見せどころでした。しかしながら、コロナ禍以降は全て中止となり、令和四年からは短時間での総会だけとなりました。

長いコロナ禍を経て寺族会を取巻く環境も変化し、以前同様の活動が難しい部分も有ると思います。が、創意工夫して乗り越えていけたらと思っています。

合掌

各 教 区 の 写 真



4 教区



11教区



12教区



18教区



15教区



14教区



1 教区



10教区



3 教区



19教区



5 教区



21教区



16教区

令和 6 年度 各教区の行事

(各教区共通の総会、役員会等は省略 ○の数字は月を表す)

教 区	行 事
1 教区	⑪研修会（岩手正法寺参拝と平泉めぐり） ② 3 教区合同研修会
2 教区	⑪親睦会 ② 3 教区合同研修会
3 教区	④人権学習 ⑥禅をきく会 ⑪研修会（福島） ①新年会
4 教区	⑩研修会（山形慈恩寺） ⑫禅をきく会 ⑫忘年会
5 教区	⑩研修会（東京巢鴨高岩寺参拝） ②柴田三十三観音巡り
6 教区	⑤研修会（東北歴史博物館） ⑫忘年会 ②禅をきく会
7 教区	未 定
8 教区	未 定
9 教区	⑩研修会（泊り東京） ②新年会
10教区	⑩研修会（登米町 狂言と能観賞）
11教区	④研修会（法話・人権学習）
12教区	⑨教区仏教講演会 ⑪研修会（福島）
13教区	⑪研修会（救命救急講習） ②新年会
14教区	⑪研修会（泊り山形）
15教区	⑧研修会（仙台方面・禅をきく会） ⑪茶道
16教区	⑩禅を聞く会 ⑪老人介護施設訪問 ⑪研修会 ②新年会
17教区	⑧研修会（禅をきく会の動画配信） ⑪忘年会
18教区	⑦研修会（御詠歌勉強会） ⑪ S V A 「絵本を届ける運動」 ②新年会
19教区	⑨ S V A 「絵本を届ける運動」 ⑩研修会（南三陸町） ⑫忘年会
20教区	⑦研修会（気仙沼） ①新年会
21教区	④茶話会 ⑩研修会（仙台市博物館） ② 3 教区合同研修会



令和6年度 曹洞宗宮城県宗務所寺族会総会 寺族会創立40周年記念式典 並びに 寺族宗務所集会・研修会
於：錦ヶ丘アーリー迎賓館 令和6年5月14日(火)

興福寺	16教区	須田 祐子
東岩寺	4 教区	田村 由美
海蔵庵	12教区	佐竹 広美
柳徳寺	18教区	荘司 史子
松窓寺	20教区	森 理恵
洞昌寺	5 教区	奥野 直子
福定寺	3 教区	山田 和歌
雲泉寺	7 教区	坪内 幸子
光岳寺	17教区	岩崎 利香
鳳仙寺	19教区	山内 仁省

編集委員一同

寺族会創立四十周年の会報第三十九号を発行することが出来ました。
節目の年に「これまで」と「これから」を考
える機会に恵まれた寺族会の活動を余すこと無
く伝えたい想いと限りあるページ数に編集委員
一同で工夫を重ねたことは良い思い出です。
お忙しい中、快く原稿依頼を受けてくださっ
た皆様、会報発行にご協力くださった皆様に心
より感謝を申し上げます。

編集後記

事務局だより

○第二回学習会

令和七年二月十四日(金)

○令和七年度寺族会総会・集会

令和七年五月下旬

役員改選について

令和七年度は役員改選の年にあたります。会長は二ブロック(一・二・四・五・六・十九・二十一教区)より選出します。当該教区の御寺族の皆様よりしくお願い致します。



本山参拝時(赤レンガ倉庫)